

●従来染料では実現できなかった、濃色かつ境界部分の明確化

従来技術は境界が不鮮明



開発技術は境界が鮮明



●化学反応による反応染料を使用し、「染料の浸透」と「繊維との結合」を同時に行う染色条件を検討し、くくり部分の防染に成功。

JIS 規格(級) 黒染料	洗濯			摩擦	
	変退色	汚染 (綿)	汚染 (毛)	乾燥	湿潤
従来染料	5	2-3	3-4	2	1
新技術	5	4-5	4-5	3	1-2

(織)

汚染用グレースケール

●原色からパステルカラーまで表現可能。洋装や雑貨など新たな展開を実現。

パステルカラー絛



脱色絛(白地絛)



反応染料を用いた新たな商品アイテム



会社概要

商 号：株式会社オカモト商店
 設 立：昭和46年
 従業員数：80名
 事業内容：久留米絛を用いた婦人服、紳士服及び服飾雑貨、生活雑貨の企画・製造・販売を手がける。和のデザインを基調としたエレガンスカジュアルのファッションブランド「儀右エ門」の直営店舗を運営するほか、「儀右エ門」ブランドから派生した「ギエモン」、「KURUMI」という多様なブランドも展開。

お問い合わせ先

●株式会社オカモト商店 取締役 野口 泰男
 福岡県久留米市日吉町12-12
 TEL 0942-32-6579
 E-mail y-noguchi@okamotoshoten.co.jp
<http://okamotoshoten.co.jp/>

●福岡県工業技術センター 化学繊維研究所 繊維技術課 田村 貞明
 福岡県筑紫野市上古賀3-2-1
 TEL 092-925-5933
 E-mail tamura-s4259@fitc.pref.fukuoka.jp
<http://www.fitc.pref.fukuoka.jp/>

法として、「染料の浸透」と「繊維との結合」を同時に行う方法を考案し、これを実現するための染色条件を検討することで、絛独特のくくり部分の防染に成功した。

また新技術による染色を行い、JIS試験で9段階評価を行った結果、洗濯による綿への色移りで4段階、洗濯による毛への色移りで2段階、摩擦による綿への色移りで4段階等、久留米絛の品質が大きく向上した。

この結果、従来染料では実現できなかった濃色かつ境界部分の明確化、洗濯や摩擦等で色移りしない高品質な絛を世界で初めて開発。原色からパステルカラーまでの色彩表現が可能となり、洋装や雑貨などの新たな分

野を展開し、百貨店への販売チャネルも拡大した。また、ナフトール染料を使わないことで輸出規制をクリアし、欧州等海外での販売も開始した。

久留米絛業界全体の品質向上や産地活性化に大きく貢献

産地が連携して新技術の生地を発売することで、平成25年には久留米絛の総生産量の約8割が新技術による製品へと転換した。また、久留米絛での新製品開発や新分野開拓に企画から取り組むようになるなど、久留米絛業界に活性化をもたらしており、伝統産業の産地再生を支える技術開発になっている。

受賞件名

海外進出を実現した、洗濯や摩擦で色移りしない高品質の久留米絛製品

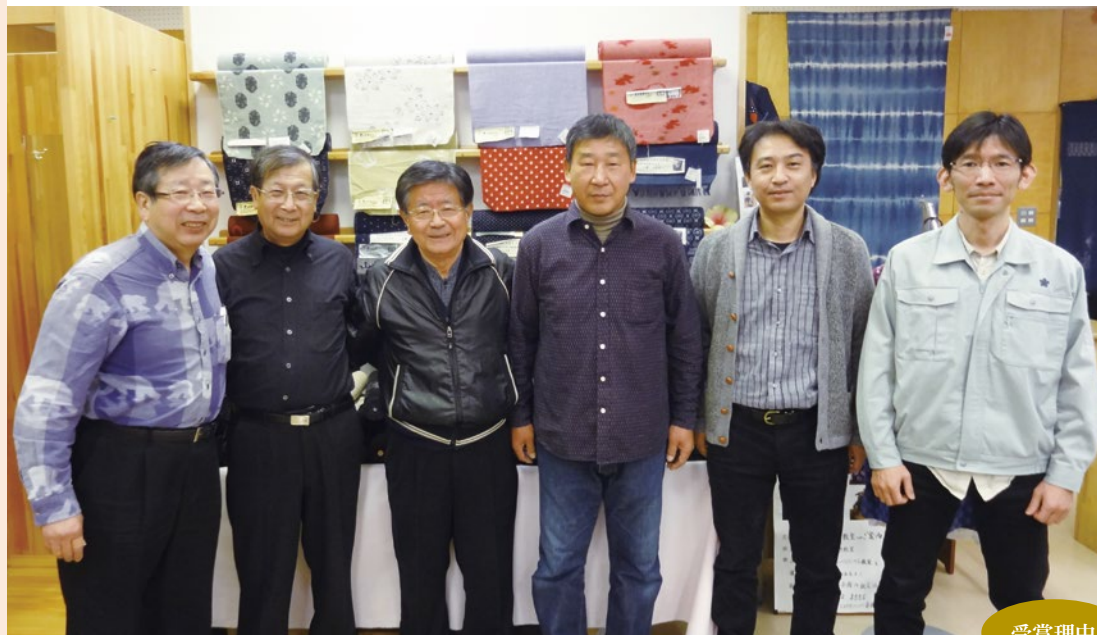
受賞者

株式会社オカモト商店

リーダー 野口 泰男

坂田 徹裕^(※1)／野村 哲也^(※2)／下川 強臈^(※3)／山村 善昭^(※4)／田村 貞明^(※5)

※1 有限会社坂田織物 ※2 野村織物有限公司 ※3 下川織物 ※4 山村かすり工房 ※5 福岡県工業技術センター 化学繊維研究所



受賞理由

- 品質向上を図る技術の開発に成功した後、その技術を産地へ普及することに努め、産地が一体となって取り組みを成功させた好事例。
- 20～30代の方を積極的に採用して後継者育成に取り組んでいることに加えて、女性ならではの商品企画を推進するなど、地方創生に大きく貢献。

受賞メッセージ

この度は、久留米絛業界の“ものづくり”への取り組みが評価され、大変光栄に思います。井上伝という一人の少女の発明から始まり、幾多の先人達の創意工夫によって、今日の久留米絛が出来ています。これからも、知恵を出し合い未来へ通ずる、新しい久留米絛を考えていきたいと思います。

生活様式の変化や色移り・色落ち等の問題から「絛」の需要や販路が縮小

久留米絛は日本三天絛の一つとされ、200年の歴史を持つ。濃色を基調とした織物で、染色箇所と未染色(防染)箇所で柄を表現する。染色箇所と未染色箇所との境界を鮮明にするため、絛糸の染色は防染可能な濃色の藍やナフトール染料(従来染料)が使用されてきた。

しかし、従来染料は、物

新たな染色技術の開発により洋装や雑貨などの新規需要を開拓

反応染料は色移り等の品質が向上する上、淡色から濃色まで様々な染色が可能である。しかし、従来の反応染料の染色条件では、くくり部分にも染料が浸透し防染できず、今までは使用されていなかった。

新たに開発した染料技術は、染料の浸透を抑える方

理吸着による弱い結合なので、洗濯や摩擦等による色移りや色落ちが発生し、天然藍以外は大手百貨店や通信販売への参入ができず、新たな商品分野への展開が困難であった。その上、ナフトール染料はその原料の有害性の疑いから欧州等では使用や輸出入に規制がかけられるなど、販路開拓上の障害にもなっていた。このような事情から、久留米絛業界では品質向上を図るため、従来染料に代わって、化学反応によって繊維と強く結合する反応染料による新たな染色技術を開発し普及させることが、長年の最重要課題となっていた。